

◆講習会等

モズク種の採苗及び寒天保存講習会

水産業改良普及センター 與那嶺盛次・中村勇次

1. 目的

県水産業改良普及センターからのモズク類培養種の配布は、平成23年度で終了することから、漁業者自らが母藻から採苗し、寒天保存できる技術を修得して、今後とも漁業現場で培養種を使用できるよう中南部地区と北部地区において講習会を開催した。

2. 開催日時及び場所

- 中南部地区：平成23年6月2日(木)
沖縄市産業交流センター
北部地区：平成23年6月3日(金)
名護市中央公民館

3. 講師

- 中南部地区：水産業改良普及センター
與那嶺盛次普及指導員
北部地区：水産業改良普及センター本部
駐在 中村勇次普及指導員

4. 参加者

- 中南部地区：モズク生産者等 17名
北部地区：モズク生産者等 15名

5. 内容

講習会では、まず、モズク種採苗・培養保存の施設及び機器について説明した。今までは、普及センターが培養種を配布していたため、拡大培養を行って種付けを実施していたが、今後は、周年を通して寒天保存等をする蛍光灯を設置した棚のある小型コンテナ等の培養室(クーラーで25℃に設定)や小型顕微鏡等が必要であることを説明した。

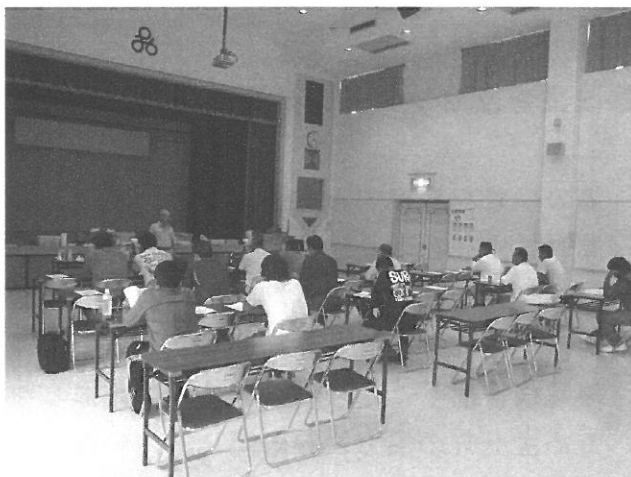
これらの施設や機器は、生産者個人が個々に持つ必要はなく、部会等で所有して電気代

等の経費を分担する方法もある。また、24時間タイマーを取り付け、夜間12時間は消灯して電気代を節約しても培養にはあまり影響しない。そればかりか、夜間も点灯し台風等で停電後復旧した場合、クーラーは復旧しないため蛍光灯の熱で、夜のために室内の温度が上昇して培養種がだめになることがよくあることを報告した。

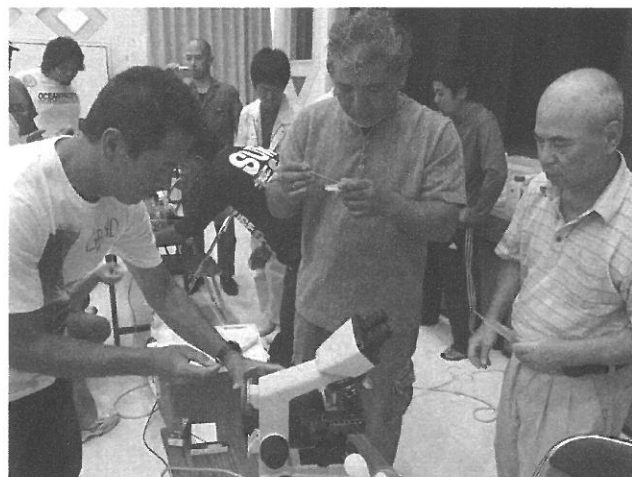
オキナワモズクの採苗方法は、「遊走子を採取する方法」、「藻体先端部を使用する方法」、「確認板を使用する方法」の3方法について、培養液による静地保存方法や培養液に雑藻が混ざった場合の清浄化手法について資料で説明した。

その後、実際に寒天培地を作製し、前もって大潮にあわせて1リットルビーカーでオキナワモズク母藻から放出させた遊走子をループ&ニードル(白金耳代用)で寒天培地に広げた。その際、寒天培地の広げ方は、コの字形に広げる新しい方法を説明し実施した。また、小型顕微鏡で寒天保存しているオキナワモズクコロニーを観察した後、純粋なモズクのみのコロニーを取り出し新しい寒天培地への植え継ぎも行った。今後は、漁業者自らがモズク種の採苗や保存を行う必要があることから、参加者は熱心に実習に取り組んでいた。

今まで、長い間普及センターが培養種を配布していたため、採苗技術や寒天保存技術が漁業現場に浸透していかなかった側面もある。現在、独自で採苗や寒天保存を実施している漁業者が数名いることから、今後、各地域で採苗方法や寒天保存方法の指導や小規模な講習会を実施し、漁業現場への技術定着を図りたい。



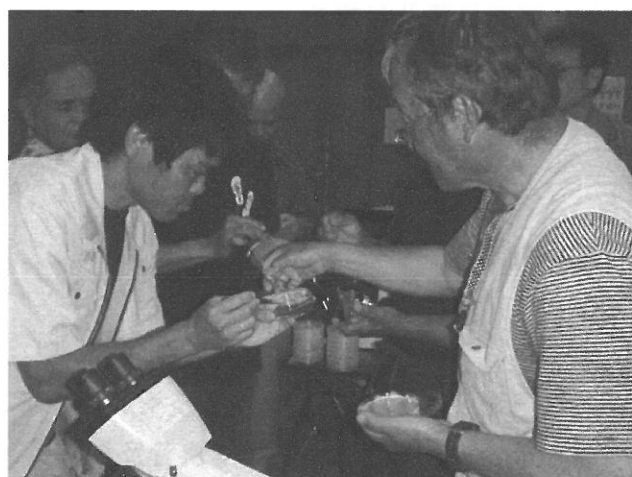
中南部地区モズク講習会の様子



モズク母藻から放出した遊走子の採苗



北部地区モズク講習会の様子



寒天を使った採苗作業の様子